

令和4年度 築瀬小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

＜基本目標＞

思いやりの心と自ら学び、正しく判断できる力をもった、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

＜具体目標（具体的な児童像）＞

ア 自ら学ぶ子（知育）

自ら学び、自ら考え、判断し、主体的に問題を解決する能力を養う。

イ 思いやりのある子（徳育）

他を思いやる心や感動する心など、豊かな心を養う。

ウ たくましい子（体育）

たくましく生きるための心身の健康と体力を養う。

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標に向け、家庭・地域の願いを踏まえ、児童と職員の共感、共汗、共歓を大切にするとともに、活気あふれる学校、やる気と自己有用感に満ちた児童、信頼される職員を目指すことにより、達成を図る。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

(1) 活気あふれる学校

- ・ 校務分掌における取組や家庭・地域との連携を推進し、「教育目標」の具現化を図る。
- ・ 創意ある提案や意見交換により組織力を強め、学校経営への参画意識を高める。
- ・ 社会の変化に対応するため、新たなことに挑戦し、明るく前向きな職場をつくる。

(2) やる気と自己有用感に満ちた児童

- ・ 児童の内面を共感的に受け止め、安心して生活できるよう、一人一人を大切にする。
- ・ 児童が集団の中で自分を発揮し、他と協働しながら、一人一人と集団を育てる。
- ・ 児童のよさや成長を見取り、認め伸ばす指導により、自己肯定感を高める。

(3) 信頼される職員

- ・ 安全・安心な環境を整え、人権感覚を磨き、服務規律、業務の効率化を確保する。
- ・ 家庭や地域の声を聞き、問題点を速やかに改善するなど、誠意ある対応をする。
- ・ 情報を積極的に発信し、学校の姿、成果を見える化し、家庭、地域の理解を得る。

[旭地域学校園教育ビジョン]

「地域に愛される旭っ子」の育成 ～地域との豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- ・ 国、県の法令や指針、市の推進計画、スタンダード、指導の重点などを踏まえ、学校経営方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、教育目標の達成を期する。
- ・ 社会の変化へ対応できるよう、教育活動相互の関連や地域の教育資源の活用などにより、知識及び技能、思考力・判断力、表現力等、学びに向かう力や人間性等の育成を図る。
- ・ 児童や学校経営に関する各種調査結果を、授業や学校改善に生かし、教育活動の見直し、校内外の資源活用など、実態に即した創意ある教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

<p>【 学 校 運 営 】</p> <p>一人一人と集団を育てる教育の実践，組織力・同僚性による効率的な職務の遂行，家庭・地域と一体となった取組の推進などによる，活気のある信頼される学校づくり</p> <p>【 学 習 指 導 】</p> <p>他者との関わり合いを通して協働的に学ぶ</p> <p>【 児 童 生 徒 指 導 】</p> <p>基本的な生活習慣や判断力を身に付け，相手を思いやり，互いに協調しながら学校生活の向上に努める児童の育成と，自治的活動等を通じた望ましい集団づくりの推進</p> <p>【健康（体力・保健・食・安全）】</p> <p>心身ともに健全で安全な生活を送るための資質・能力を備え，進んで健康・体力の向上を目指す児童の育成</p>

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価							
目指す児童の姿	<p>A 1 <u>児童は，進んで学習に取り組んでいる。</u></p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートの「児童は，授業中に進んで話し合うなど，積極的に学習している」 ⇒児童，保護者の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>① <u>毎時間の授業の中で，学習のめあてを明示することで，児童が進んで学習に取り組めるようにする。</u></p> <p>② <u>児童が授業中に自信をもって話ができるよう，学年の発達段階に応じた話し方や聞き方の指導を行う。</u></p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>100</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>88.5</td></tr> <tr><td>児童</td><td>93.1</td></tr> </table> <p>すべての対象において，肯定回答は指標を達成した。教職員において，指標を 10 ポイント以上，上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>児童が進んで学習に取り組めるよう，学習のめあてを明示して授業を行うことができた。次年度も継続して指導していく。</p> <p>改めて教職員間で，話し方聞き方の指導の共通理解を図り，感染症対策に十分配慮しながら話合いの機会を設定していく。</p>	教職員	100	保護者	88.5	児童	93.1	
	教職員	100									
保護者	88.5										
児童	93.1										
<p>A 2 <u>児童は，思いやりの心をもっている。</u></p> <p>【数値指標】</p> <p>全体アンケートの「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童，保護者，地域の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>① <u>帰りの会等で，友達のよさを認め励まし合う活動を取り入れることで，互いに思いやりのある行動をしようとする雰囲気高める。</u></p> <p>② <u>「やなげフェスティバル」などの縦割り班活動や，「ありがとうの会」などの行事を通して，友達や地域の方々への感謝をもち，思いやりの心の育成を図る</u></p>	B	<p>【達成状況】</p> <table border="1"> <tr><td>教職員</td><td>93.9</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>94.2</td></tr> <tr><td>地域住民</td><td>94.7</td></tr> <tr><td>児童</td><td>88.7</td></tr> </table> <p>すべての対象において，肯定回答は指標を達成した。教職員，保護者，地域住民において，指標を 10 ポイント近く上回った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>継続的に認め合う活動を，学級経営の中でも取り入れたり，児童の取組のよさを全体に広げたりしていく。</p> <p>また，引き続き児童会活動を中心として「やなげフェスティバル」や「ありがとうの会」などにおいて，思いやりの心の育成に学校全体で取り組んでいく。</p>	教職員	93.9	保護者	94.2	地域住民	94.7	児童	88.7
教職員	93.9										
保護者	94.2										
地域住民	94.7										
児童	88.7										

A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活している。

【数値指標】

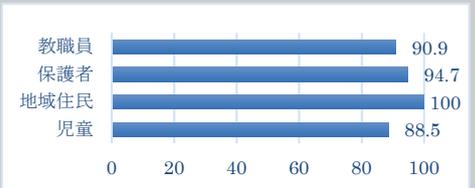
全体アンケートの「児童は、きまりやマナーを守って、生活している」

⇒**教職員、保護者、地域の肯定的回答率 80%以上**

①「築瀬小学習のきまり」を活用し、学習準備・姿勢・鉛筆の持ち方・返事・片付け等、学習を支える技能や態度の徹底指導に努める。

②「築瀬小よい子の一日」を活用し、学校生活のきまりについて教職員が同一步調で継続的な支援に努める。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員・保護者・地域住民において指標を10ポイント以上、上回った。

【次年度の方針】

全職員が同一步調で指導していくことができるよう、学期初めに重点項目を定期的に確認して指導の徹底を図る。

基本的な生活習慣に関しては、個人差が見られる。今後もきまりやマナーなどを守れるように、学校全体での指導方法を工夫していく。

「築瀬小よい子の一日」を活用し、全職員共通理解の下、指導支援を充実させていく。次年度も引き続き「立腰」に取り組み、落ち着いて学校生活を始められるように努めていく。

B

A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。

【数値指標】

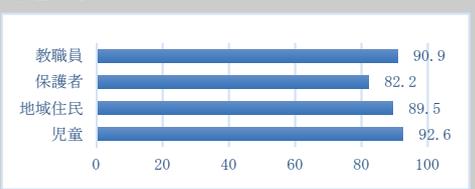
全体アンケートの「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」

⇒**児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 80%**

① 年間を通して「心のこもったあいさつ運動」を設定し、「あいさつ運動」で、意識づけを図り、代表委員や学年交代によるあいさつを推進する。

② 登下校時等校外においても元気にあいさつできるよう、保護者・地域・中学生・旭地域学校園教職員などと連携を図り、あいさつ運動を実施する。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員・地域住民・児童において指標を10ポイント近く、上回った。

【次年度の方針】

全職員の共通理解のもと、教職員が率先してあいさつをし、習慣化を図る。

あいさつ運動を年間通して行い、児童自身があいさつする大切さや気持ちよさを体感し、地域においてもあいさつの日常化を図っていく。大きな声を出してあいさつができない場面での会釈の指導も、引き続き継続していく。

B

A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。

【数値指標】

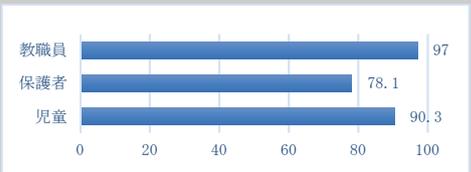
全体アンケートの「わたしは、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」

⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%以上

① 毎時間の授業で学習のめあてや流れを明示したり、振り返りを行ったりして最後まであきらめずに学習に取り組む態度の育成を図る。

② 学習や運動で、自分の取り組みへの継続的な頑張りや伸びが分かるように、カード等の活用を図るとともに、頑張っている児童の称賛を図る。

【達成状況】



教職員、児童の肯定回答は、指標を上回ったが、保護者において、指標を1.9ポイント下回った。教職員と保護者に18.9ポイントの差がある。

【次年度の方針】

学期ごとに学習生活目標を立てるだけでなく定期的に振り返る機会を設ける。

ホームページ等を活用し、学校での児童の継続的な頑張りや伸びをさらに家庭や地域に発信していく。

A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。

【数値指標】

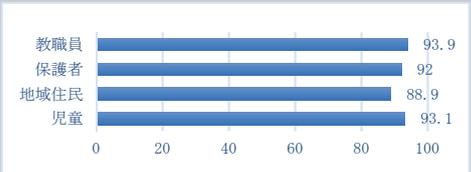
全体アンケートの「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」

⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 80%以上

① 感染症等の予防のため、手洗いうがいの励行を推進し、また、自主的にマスクをしたり換気をしたりする意識を高める。

② 安全面に気を付けて生活できるよう、登下校の際の安全な歩き方や、学校生活全体で危険を考えて危ない行動をとらないような意識を育てる。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員・保護者・児童において指標を10ポイント以上、上回った。

【次年度の方針】

児童一人一人が健康や安全な生活を意識し、自ら正しい行動ができるよう、今後も継続して指導や声掛けを行う。

地域住民の方に関しては、引き続き学校での取組を周知するために、ホームページなどを活用していく。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるように努力している。

【数値指標】

全体アンケートの「わたしは、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」

⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%以上

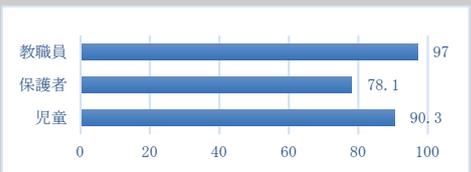
① 生活科や総合的な学習の時間、社会科や道徳科等の授業で、自分自身を振り返る時間や、自分がどう生きていきたいかを考える時間を設ける。

② 家庭や地域との連携による体験学習や出前授業を取り入れ、児童が夢や目標を持てるように、働くことの大切さや喜びを実感させる教育活動を展開する。

③ 地域協議会と連携した「夢授業」の実施や宮・未来キャリア教育の充実を図るために各教科や特別活動、道徳等との関連を図り、年計への位置づけを行うとともに、キャリアパスポートの有効活用を図る。

④ 各種たより、HP、学校公開等の機会を通し、教育活動を積極的に発信する。

【達成状況】

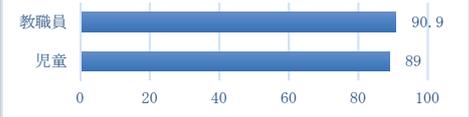
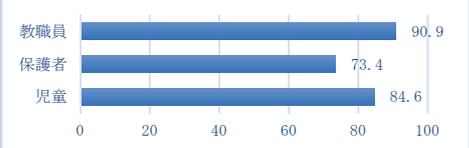
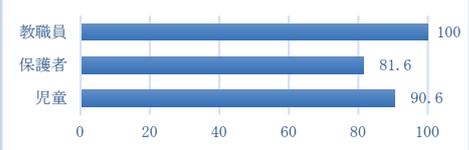


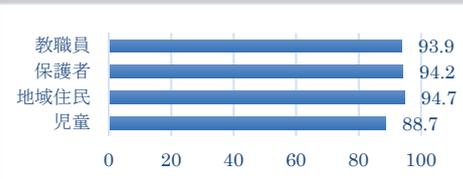
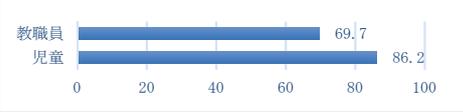
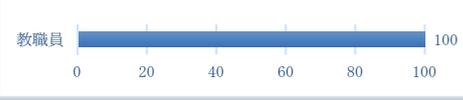
教職員、児童の肯定回答は、指標を上回ったが、保護者において、指標を1.9ポイント下回った。教職員と保護者に18.9ポイントの差がある。

【次年度の方針】

道徳や総合的な学習の時間の体験的学習の充実を図り、生き方を考える時間をしっかり確保していく。

家庭や地域との連携による体験学習等を取り入れたりキャリアパスポートを有効活用したりすることで、将来への意欲を高める。

<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① 英単語を使った活動や、先生や友達とのコミュニケーションを通して、会話をするための英語表現に慣れ親しめるようにする。</p> <p>② 授業に限らず、階段や各教室等の掲示物を通して、児童が日常生活の中で英語に触れる機会を増やし、正誤は問わず積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、指標を10ポイント近く上回った。</p> <p>【次年度の方針】 今後も児童が英語に触れる機会を増やすために取り組みを継続していく。今後もALTと協力してコミュニケーションをとることの楽しさを味わえるように支援していく。</p>
<p>A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① 生活科や総合的な学習、社会科の学習で、地域や宇都宮の歴史や有名な場所を調べる学習を行うことで、宇都宮についての知識を深める。</p> <p>② <u>築瀬地区や宇都宮市に昔から伝わる伝統的な行事や、新たに企画されたイベントに参加することで、人とのつながりや行事のよさを知ろうとする態度を育成する。</u></p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員、児童の肯定回答は指標を上回ったが、保護者は6.6ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 授業の中で、宇都宮のよさについての学習を今後も継続して指導していく。 校内掲示等において、地域の名所や歴史を児童に伝えていく。また、保護者に向けて、学校だよりやホームページによる広報活動を継続的に発信していく。</p>
<p>A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① 図書室を計画的に利用したり、タブレットを使う機会を意図的に設けたりして、児童のICT機器の活用技術を高められるようにする。</p> <p>② 調べたことや自分の考えをまとめる際、ICT機器を活用し、書く力の向上を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、児童においては、指標を10ポイント以上、上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ICT支援員による授業補助等を活用したり、必要に応じて校内研修を行ったりすることで、児童の技能向上とともに、教職員のICT機器の活用技術の向上も図っていく。 これまでの取組を継続しながら、学年だよりやホームページ等を通して、児童がICT機器を活用している様子を発信していく。</p>

	<p>A11 <u>児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</u></p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上</p>	<p>① <u>築瀬コミュニティーセンターでの交流会やふるさと教室、運動会などの学校行事などにおいて、感謝やいたわりの気持ちをもって接することができる態度を育成する。</u></p> <p>② <u>敬老会で地域の高齢者に手紙を書く活動を通して、下校の際の見守りや環境整備などへの感謝の気持ちを表現する力を育てる。</u></p>	<p>【達成状況】</p>  <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。教職員、保護者、地域住民において、指標を 10 ポイント近く上回った。</p> <p>【次年度の方針】 R4 年度はコロナ感染対策のため未実施のものもあった。今後、道徳の授業実践や日常的な指導・実践、学年による高齢者と交流会などを取り入れ、感謝の気持ちやいたわりの心の育成を図る。</p>
	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について関心をもっている」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① 各種委員会の活動を通して、全校生で古紙やペットボトルキャップの回収を行ったり、日々の生活の中での節電や節水を心掛けたりすることで、環境を大切にしようとする意識を高める。</p> <p>② 社会科や家庭科、総合的な学習の授業で、環境問題や環境を守る学習を行い、実践に向けての知識の定着を図る。</p>	<p>【達成状況】</p>  <p>児童の肯定回答は指標を上回ったが、教職員の肯定回答は指標を 10.3 ポイント下回った。児童と教職員に 16.5 ポイントの差がある。</p> <p>【次年度の方針】 「持続可能な社会」に向けて学校で行っている環境に配慮した取り組みの周知を行い、学校全体の関心を高めていく。 「持続可能な社会」について、関心をもたせるために、身近な給食指導において食について考えさせ、健康や食料の大切さに対する意識を高める。 図書室の SDGs の関連書籍等を活用し、児童の関心を高め、知識を深める。</p>
<p>目指す学校の姿</p>	<p>A13 <u>教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</u></p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答率 80%以上</p>	<p>① <u>特別な支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設け、全職員が児童の実態を把握する。</u></p> <p>② <u>教材研究を進め、児童一人一人に合った授業支援の在り方を実施するとともに、必要に応じてかがやきルームやレインボールームの活用を検討する。</u></p>	<p>【達成状況】</p>  <p>教職員の肯定回答は指標を達成し 100% だった。</p> <p>【次年度の方針】 特別支援教育研修を行い、支援を必要とする児童の共通理解を図る場を設けたり、全職員が児童の実態を把握したりしていきたい。 担任の困り感などに応じて支援委員会を開催し、かがやきルームやレインボールームの活用を検討していきたい。</p>

A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。

【数値指標】

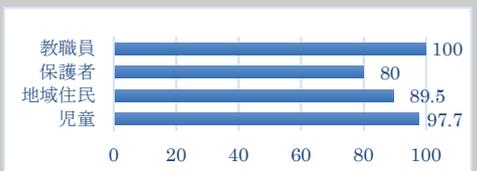
全体アンケートの「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」

⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 85%以上

① いじめゼロ強調月間での取組を通し、いじめが許されない行為であることを指導するとともに、年2回の教育相談を実施し、児童の悩み等をきめ細かに把握し解決を図る。

② 学級懇談時や学年便り等を通し、学校の取組を保護者に伝え協力を得るとともに、保護者や児童の思いを十分に受け止め、強い意志をもって指導に当たる。

【達成状況】



教職員、地域住民、児童の肯定回答は指標を上回ったが、保護者の肯定回答は5ポイント下回った。

【次年度の方針】

いじめゼロに向け、家庭、地域と協力して取り組めるよう、家庭にどのような活動をしているか、児童への指導に関する情報をさくら連絡網などを活用して積極的に伝えていく。

次年度は今年度の取組を行うと同時に、標語の掲示の仕方を工夫して意識を高める環境作りも行っていく。

A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。

【数値指標】

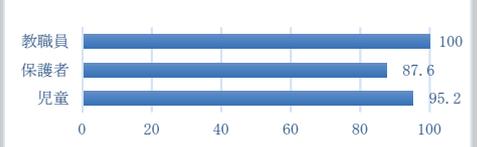
全体アンケートの「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってかれている。」

⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 85%以上

① 児童間のよりよい関係づくりのために、Q-U や教育相談について校内で研修を行い、それらを生かした学級経営を実施する。

② 欠席が続く児童に対して、電話や家庭訪問を行うとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等とも連携を図り、児童に適したアプローチを継続的に行う。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。教職員と児童は指標を10ポイント以上、上回った。

【次年度の方針】

児童が抱える問題について早期発見に努めたり、関係職員で情報を共有した後に職員全体でも共通理解したりしていく。そして、引き続き関係機関等と連携を図りながら、それぞれに適したアプローチを継続的に行っていく。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。

【数値指標】

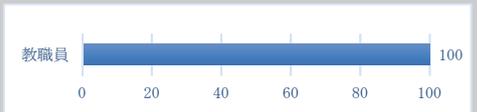
全体アンケートの「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」

⇒教職員の肯定的回答率 80%以上

① 外国人児童等の共通理解を図る場を設け、全職員が児童の実態を把握する。

② 教材研究を進め、児童一人一人に合った学習支援を実施するとともに、必要に応じてレインボールームの活用を検討する。

【達成状況】



教職員の肯定回答は指標を達成し 100%だった。

【次年度の方針】

外国人児童等に必要な支援や具体的な手立てを考え、指導することができた。

児童の実態について共通理解を図り、担任と日本語教室担当と連携を取りながらレインボールームを利用することができたので、この態勢を継続していく。

A 17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。

【数値指標】

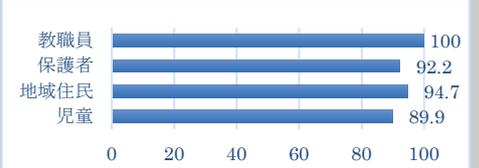
全体アンケートの「私は今の学校が好きです」

⇒**児童、保護者、地域の肯定的回答率 85%以上**

① 児童一人一人の話をよく聞いたり、帰りの会等で児童同士がよさを認め合う場を設定したりして、互いに認め励まし合う集団づくりを図る。

② やなげフェスティバル、ふれあい活動、ありがとうの会、音楽集会等様々な活動を充実させることで、達成感や成就感、思いやりの心を育む。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。教職員と地域住民は指標を10ポイント近く上回った。

【次年度の方針】

「やなげフェスティバル」や「ありがとうの会」などにおいて、思いやりの心の育成につながるよう、振り返りの工夫や全校への発信を試みる。

児童同士がよさを認め合う場を意図的に設定したり、教職員が児童のよさを認める言葉かけをしたりすることで、互いに認め励まし合う集団になるよう導いていく。

B

A 18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。

【数値指標】

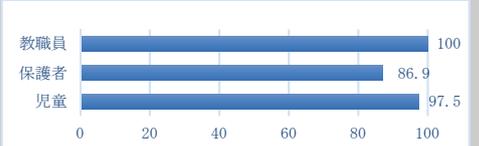
全体アンケートの「教職員は、児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」

⇒**児童・保護者の肯定的回答率 80%以上**

① 校内研修を計画的・継続的に実施するとともに、互いの授業を見合い、意見を交換し合いながら、授業力の向上を目指す。

② 今年度の学校課題「一人一人が主体的に取り組み、学び合う国語科の授業づくり～基礎・基本の定着と深い学びを求めて～」を図るために、少人数指導や IT による学習等、個に応じたきめ細かな指導の充実を図り児童一人一人がめあてをもち、主体的・協働的学習に取り組めるよう工夫する。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。教職員と児童は指標を10ポイント以上、上回った。

【次年度の方針】

次年度も授業力向上を掲げ、継続して取り組んでいく。

次年度の学校課題に沿い、個に応じたきめ細かな指導の充実を図り、児童一人一人がめあてをもち、主体的・協働的学習に取り組めるよう継続して工夫を取り入れていく。

B

A 19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。

【数値指標】

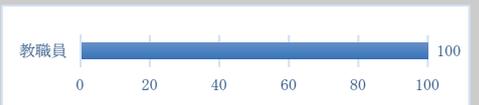
全体アンケートの「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」

⇒**教職員の肯定的回答率 85%以上**

① 学校図書館司書、ALT と事前打合せや事後の振り返りを共に行う時間を設けることで、より効果的な授業を目指す。

② かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーとのコミュニケーションをとる時間を設定することで、児童理解や効果的な学習法を共に模索していく。

【達成状況】



教職員の肯定回答は指標を達成し、100%であった。

【次年度の方針】

ALT との打合せには、休み時間や放課後の時間を利用することで、時間を確保できるようにする。

担任と、かがやきルーム指導員、スクールカウンセラーが連携を図り、児童の実態を考慮した支援をすることができたので、今後も継続していく。

B

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。

【数値指標】

全体アンケートの「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」

⇒教職員の肯定的回答率 80%以上

① 学校行事や児童会行事、学年行事ごとの反省をもとに、より学習効果が効率よく実施できるよう、改善を図る。

② 教職員一人一人が、勤務時間を意識し、計画的に業務を行うとともに、毎月、学校全体または学年でリフレッシュデーを設定し、時間を意識しながら勤務する。

【達成状況】



教職員の肯定回答は指標を 7.9 ポイント上回った。

【次年度の方針】

学校・学年・児童会等の行事を精選し、次年度の計画に生かし、実施していく。

職員会議等、会議や打合せの時間の終了時刻を決め、協議内容を必要最低限に抑えたり、ミライムの掲示板等を利用したりして、時間短縮を図ることで、教材研究や児童と向かい合う時間の確保に努める。

B

A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。

【数値指標】

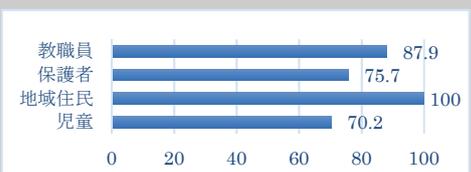
全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」

⇒児童、保護者、地域の肯定的回答率 80%以上

① 小学校への乗り入れ授業や児童生徒指導連絡協議会等の実施を通して、児童・生徒の情報交換を行うとともに、学習内容・指導法等の理解を深める。

② 卒業生の積極的な行事等への参加を通して、児童の中学校進学への不安感を減らしたり、地域学校園としての所属感を高めたりする。

【達成状況】



教職員と地域住民の肯定回答は指標を上回り、保護者は 4.3 ポイント、児童は 9.8 ポイント下回った。

【次年度の方針】

小中一貫教育の活動については、活動が再開できるようになったので、保護者や児童に向けて「旭地域学校園」と明記し、目標や具体的な取組を周知していく。

卒業生の行事等への参加が少しずつ再開しており、今後、さらに充実を図っていく。

B

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。

【数値指標】

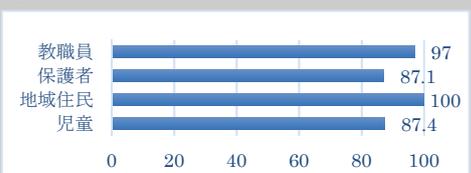
全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」

⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上

① 地域の学習素材や人材を積極的に活用し、地域の方々とふれあいながら授業や活動を行うことを通して、主体的に生き方を学ぶ児童の育成をめざす。

② 地域内の幼稚園との生活科の授業での交流会や、運動会等の学校行事を通して、幼稚園との連携を強化していく。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。教職員と地域住民は、指標を 10 ポイント以上、上回った。

【次年度の方針】

旭地域学校園の人材を活用し、充実した夢授業を展開することができた。今後も、さらに、地域人材育成を図り、体験的な授業を実践していく。

コロナ禍において、地域内の幼稚園、保育園と授業参観を通しての情報交換を行い、より連携を図ることができた。今後も連携を深め、授業や行事などの場面を通して、直接的、間接的な交流の場面を図っていく。

B

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。

【数値指標】

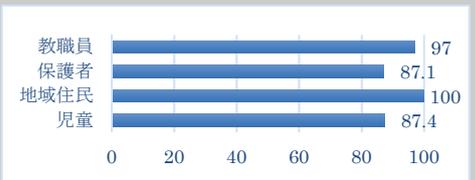
全体アンケートの「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」

⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上

① 築瀬地区の各種団体や魅力ある学校づくり地域協議会等の活動を通して、学校と家庭・地域が連携し、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。

② 出前授業や夢授業など、地域の人材や企業等と連携した活動を取り入れることで、キャリア教育の充実を図る。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。教職員と地域住民は、指標を 10 ポイント以上、上回った。

【次年度の方針】

コロナ対策を講じて、地域人材の活用や企業と連携した活動を実施することができた。今後、さらに企業等の連携を図り、出前授業等の体験的活動を取り入れ、授業の充実を図る。

B

A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。

【数値指標】

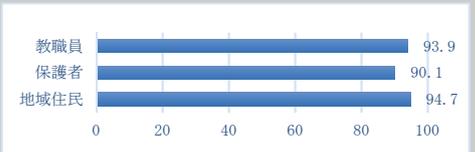
「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」

⇒保護者・地域住民の肯定的回答率 80%以上

① 教職員による毎月1回の定期環境点検の他、随時異状があった場合には管理職に報告し、危険箇所に対して修繕・撤去等の対策を講じる。

② 長期休みや行事前の特別清掃・PTAによる親子奉仕活動・毎月行っている教職員による環境点検等、整った環境づくりに向けての活動を実施する。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。また、指標を 10 ポイント以上上回った。

【次年度の方針】

さらに定期点検や日常の点検を行い、危険箇所の早期発見に努め、引き続き安全に配慮した環境づくりをしていく。

保護者や地域住民の方々に対して、学校での取り組みをさらに周知するために、ホームページなどを活用していく。

B

A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。

【数値指標】

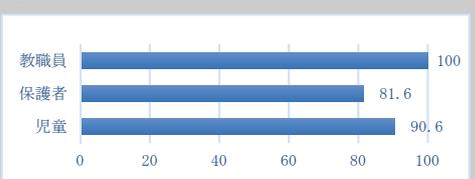
全体アンケートの「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」

⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%以上

① ICT機器や図書等を活用して課題を調べる機会を設定し、課題解決に積極的に取り組もうとする態度を育てる。

② 図書購入計画を立てる際、児童や教職員からの要望や、基準数との比較をもとに、活用のために必要な図書の選定を行う。

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。教職員、児童においては、指標を 10 ポイント以上、上回った。

【次年度の方針】

昨年度に引き続き、教職員が積極的に研修に参加し、より効果的に活用できるようにミニ研修を計画的に行う。

ICT 機器と図書のそれぞれの良さを学習しながら場面によって使い分けて学習を進めていく。

児童からのリクエストや学習に適した図書を購入し、図書だよりや図書室用クラスルームを通して、購入した本について発信することで、保護者や児童に周知を図っていく。

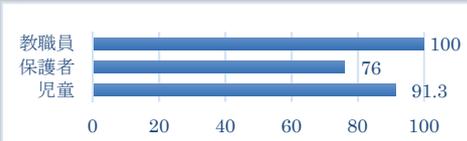
B

B 1 保護者との信頼関係が築かれ、家庭との連携が図られている。
【数値指標】
 全体アンケート「学校は、保護者と連絡を密にしながら、指導に当たっている」
⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%

- ① 保護者との信頼関係が保てるよう、児童のよい面やよくなったこと、できるようになったこと等を連絡帳や電話・家庭訪問等で保護者にこまめに伝えるよう努める。
- ② 児童の問題行動等については、迅速な対応のために「報・連・相」を行い、組織を機能させ、家庭と連携しながら解決に当たる。

B

【達成状況】



教職員と児童において、肯定回答は指標を達成したが、保護者は4ポイント指標を下回った。

【次年度の方針】

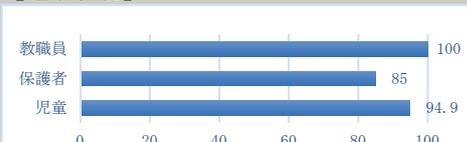
児童の良さを見取り、積極的に連絡帳や電話で継続的に伝えていく。
 授業参観、保護者懇談会を通して、学校生活における問題点や改善点等を話し合うことで、更なる連携を図っていく。

B 2 児童は自己存在感をもって、居がいのある学校・学級で過ごしている。
【数値指標】
 全体アンケート「自分の学級は居心地がよいと思う」
⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%

- ① 児童が居がいのある学校生活を送るために、また児童同士の信頼関係に満ちた温かい学級で過ごせるために、認め励まし合える学級経営を充実させる。
- ② 毎時間の道徳の授業を充実させ、よりよい学校生活、集団生活の構築に努める。

B

【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。教職員、児童においては、指標を10ポイント近く、上回った。

【次年度の方針】

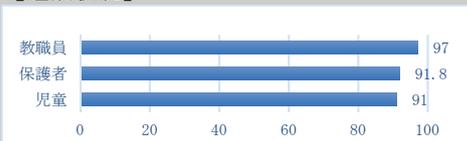
学校教育目標を常に意識しながら、お互いの良さを認める機会を意図的に設定するなどして、自己存在感を高めていく学級づくりを工夫して行っていく。
 道徳の授業において、タブレットを有効活用するなど、自分の考えを積極的に伝えることで、児童同士の関わりを深め、学校生活においてより良い人間関係を築いていくようにする。

B 3 思いっきり遊んだり、自分の健康に対する関心を深めたりして、健康的な生活をしている。
【数値指標】
 全体アンケートの「自分は、休み時間等思いっきり遊んだり、自分の健康に関心をもったりして生活をしている。」
⇒児童、保護者の肯定的回答率 80%以上

- ① 校庭での遊びの約束を守り、「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、休み時間や昼休み等、友達との外遊びを奨励する。
- ② 保健便りを毎月1回発行して、健康・衛生面を含め、健康に対する関心や家庭の意識の高揚を図っていく。また、養護教諭と連携を図った保健学習を計画的に実施し、充実させていく。

B

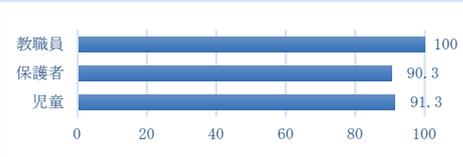
【達成状況】



すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。また、指標を10ポイント以上上回った。

【次年度の方針】

ロング昼休み等を活用して「思いっきり遊ぼう活動」を推進し、休み時間や昼休み等、友達との外遊びを継続的に奨励する。
 休み時間の外遊びに関して、運動委員会を中心とした活動を来年度も引き続き行い、運動に親しむ機会を多く設ける。
 次年度も継続して保健だよりを毎月発行し、保護者や児童に向けて正しい情報を発信していく。
 保健学習に関して、担任と養護教諭の連携を密にし、計画的に実施していく。

<p>B 4 読書活動の充実に努め、心豊かな児童の育成に努める。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「先生方は、自分たちのために、学校や家庭で楽しく読書できるよう、工夫している」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 90%以上</p>	<p>① 本に親しむ心を育むために、読書記録カードの活用、校内読書タイムの充実のために、ボランティアや教職員による読み聞かせや本の紹介等の「読書大好き運動」を推進する。</p> <p>② 家庭での読書の習慣化を図るために、学校図書館便りの発行や親子読書の推奨等に努める。</p>	<p>【達成状況】</p>  <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.3</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>91.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>すべての対象において、肯定回答は指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 昨年度と同様にクラスルームを開設するなど、ICT機器も活用していく。デジタルやアナログを使い分けながら児童が本に触れる機会を増やしていく。 読書リレー、家読カード等の取り組みを継続していく。 図書館司書による授業への参画を推進していく。</p>	対象	達成率	教職員	100	保護者	90.3	児童	91.3
対象	達成率									
教職員	100									
保護者	90.3									
児童	91.3									

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>1 目指す児童の姿</p> <p>【数値指標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問 10 項目中、7 項目で数値指標を達成した。 ・数値指標を達成していない 3 項目は、「夢や目標への取組」「宇都宮の良さの理解」「持続可能な社会への関心」である。 <p>【考察及び今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・達成状況の背景について、教職員が、学校教育目標の具現化に向け、担当学年・学級、校務分掌に応じて指導にあたるとともに、一人一人と集団を育てる教育を実践し、一人一人の思いを引き出したり、相手意識を高めたりしたことがあると考える。 ・夢や目標に向かって粘り強く取り組むことに課題があり、児童の努力や成長が分かるカードなどを活用したり、夢に向かう生き方から学ぶ機会を設けたりして、さらなる向上を図る。 ・「宇都宮の良さの理解」を深める活動(築瀬地区や市の伝統的な行事やイベント等への参加推奨)に地域協議会と連携を図って取り組み、自分や身近な人・ものへの理解を深め、愛着や誇り、自信をより一層もてるようにし、やる気と自己有用感に満ちた児童を育てていく。 ・「持続可能な社会への関心」を高めるために、まずは学校や地域で取り組んでいる身近な活動について学習し、環境問題について周知したり、自分事として今できることを考え実践したりする働きかけを工夫する。 <p>2 目指す学校の姿</p> <p>【数値指標の達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問 15 項目中、12 項目で数値指標を達成した。 ・数値指標を達成していない 3 項目は、「いじめ対策」「小中一貫教育の取組」「家庭との連携」である。 <p>【考察及び今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、多様な児童の特性や不安、悩みなどに応じることができるよう、学習及び児童指導面において、教職員が相互に連携し、きめ細かな配慮や工夫をしてきたことが達成状況につながってきていると考えられる。 ・児童の自己存在感、自己肯定感を育てるために、集団の中で自分の役割を果たすことで周りの人から認められるような活動を行っていく。このような取組を、学校行事や学級での活動において、意図的・計画的に実践することで、活気と居がい感を高めていく。 ・「いじめ対策」として、いじめが許されない行為であることを日常的に指導していく。学級懇談会時や学年だより等を通して、学校の取組を保護者に知らせていく。 ・「家庭との連携」について、保護者と学級懇談会等で直接、話し合ったり、連絡帳や電話連絡の際に、児童のよさや成長を伝えたりするなどして、協力体制を築いていく。 ・「小中一貫教育の取組」について、乗り入れ授業や小中あいさつ運動等の取組を通じて、児童生徒間の情報交換を密に行う。ホームページや学校だよりを通して、活動を報告し周知を図る。

7 学校関係者評価

- ・コロナ禍にありながらも、充実した活動を行ってきたことを評価したい。次年度の方針についても、さらに活動が工夫されている。
- ・「宇都宮のよさ」について、授業を中心とした活動を幅広く行っていきたい。地域でも広報誌などを通じて、宇都宮のよさを伝えていきたい。学校のメール配信システムなども活用したい。
- ・学校では、外国籍の児童の指導に尽力し、大変ありがたい。外国籍児童の指導について、細かなことまで体制が整えられていて、本校の外国籍児童は恵まれている。外国籍児童が安心して、楽しく学校に登校できるよう、これからも学校の努力をお願いしたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・児童一人一人がやる気と自己有用感をもてるように、一人一人を大切にしながら、集団を育てる指導を粘り強く行っていく。
- ・学校経営に積極的に参画する教職員を育てることで、教職員の組織力を高め、活気あふれる学校づくりを目指す。
- ・保護者、地域の声に誠意をもって対応し、教育活動の具体的な取組や成果の見える化を図るなど、信頼関係の構築を目指す。

【学習指導】

- ・児童の学力、学習意欲の向上のため、具体的な操作を通して思考する活動を取り入れるなど、主体的、協働的な学習を意識した授業づくりを行う。
- ・地域とともにある学校づくりを目指し、地域の豊かな教育資源を活用し授業を行ったり、児童と地域住民の交流を取り入れた体験的な活動を実施したりする。

【児童生徒指導】

- ・「築瀬小よい子の一日」を活用し、全校体制で共通理解を図り、同一の指導を継続的に行っていく。
- ・児童が相手を思いやり、助け合って生活できるよう、相手意識をもった言葉遣いやあいさつができるよう指導していく。
- ・自己肯定感を高め自己有用感をもてるように、お互いのよさを認め合う活動や機会を設定し、認められることの喜びや誰かの役に立つ喜びを実感できる指導を行っていく。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・児童が、健康で安全に過ごせるよう、手洗い、換気などの感染症対策を引き続き行う。また、交通ルールやマナーを守る態度を、家庭や地域の協力を得ながら育てる。
- ・児童の体力向上、運動習慣の定着に向け、自分の取組の伸びが分かるカード等を活用して粘り強く取り組む態度を育てる。
- ・日常の食事に興味、関心をもち、マナーを守り楽しく食事をすることが心身の健康につながることを指導する。